

**障害者リハビリテーションセンター
～高次脳機能障害の方への支援～**

社会福祉法人 豊潤舎

新潟県障害者リハビリテーションセンター

支援員 白井 祐輝

高次脳機能障害の利用者状況

利用人数

平成18年～23年（23年2月）

→ 128名（59名 高次脳機能障害） 46%

平成24年7月現在

→ 32名（19名 高次脳機能障害） 59%

全体の約半数が高次脳機能障害の方が利用

3 高次脳機能障害の方への支援の状況

1. ST評価

御本人のニーズ・障害状況を確認

担当 → ニーズ確認

ST評価 → 御本人の障害状況进行评估(1~3ヶ月ごとに)

身体的リハビリ・職能リハビリ

ST評価にて各障害に応じた訓練メニューを考案

→ 訓練効果の確認、代償手段獲得

各連携機関等

復職先、障害者職業センター、ハローワーク

高次脳相談支援センター等

事例紹介

S・Kさん 男性（44歳）

- * 脳腫瘍（髄膜腫）術後脳出血、右片麻痺
高次脳機能障害 右半盲
- * 身体障害 1種 1級
- * 家族構成 : 御実家（父、母、息子、御本人）
- * 職歴 : 土木関係（受傷前）
- * ADL : 自立（動作自立だが声掛け必要）
- * 移動 : 杖歩行
- * ニーズ : 身体機能の向上
高次脳機能障害の改善
（日常生活に支障がない程度）
→在宅生活への復帰

高次脳機能障害の支援状況

- ・ 失読・失書・構成失行（構成失書）
- ・ 記憶障害 ・ 見当識障害（視覚失認） ・ 注意障害

日常生活→文字を読むこと、書くこと、居室の把握

伝えられたことを覚えておくことが難しい

（人の名前、新しいことを覚えられない）



目標 記憶の代償手段としてのメモの定着

アプローチ（職能リハビリ）

失読・失書・視覚失認

50音練習（読み、書き）

漢字練習（画数の少ない漢字 例  →き →木）

短文読み練習（読めない字→なぞり書き）

絵カードを見て単語を読む・書く練習（なぞり書き）

高次脳機能障害の支援状況 2

半年後のST評価

失読・視覚失認→改善（検査当初は正解率2割→評価後9割）
失書→構成失行（構成失書）の影響（漢字判別×）（50音○）
記憶検査→意味記憶（知識）×・エピソード記憶（行動）○
聴覚的理解→×



日常生活で使用する漢字練習（小3）→運筆スピードアップ
文章音読練習（短文→長文）→読むスピードアップ
記憶日記（出来る限り漢字使用）→記憶力向上、メモの定着
数字聞き取り・読み取り
文章聞き取り課題（短文・数字含む）
指示による理解と行動→（職員の方で指示）

聴覚的理解
訓練

※生活の中でメモを使用していただく（班活動、訓練予定の把握等）

高次脳機能障害の支援状況 3

高次脳機能障害の改善→失読・失書・失認 改善

メモの定着・代償手段の獲得

記憶障害の改善（記憶できる量が増えた）

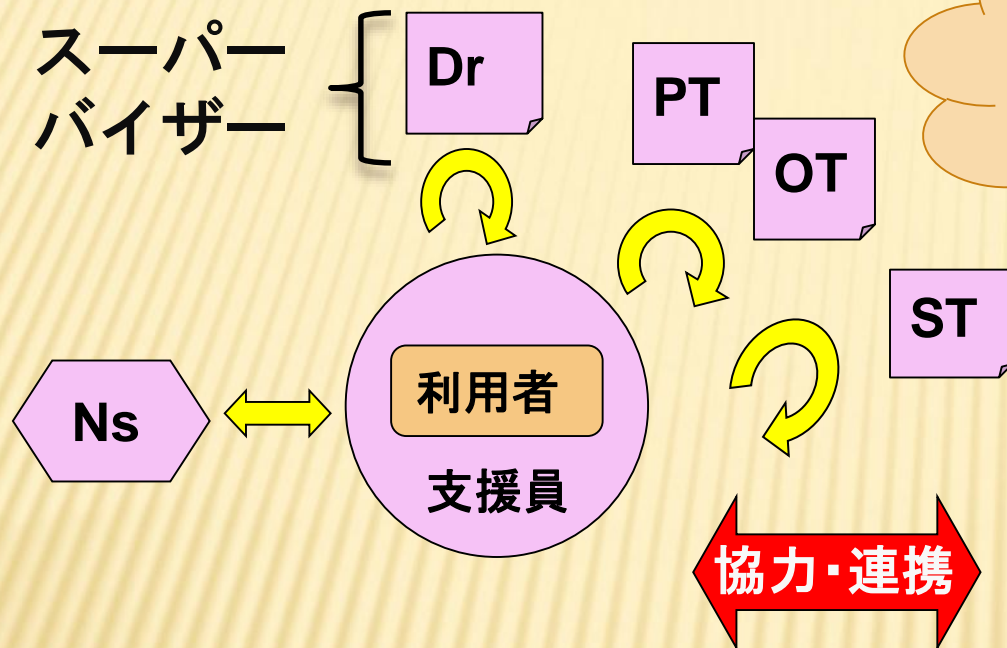
日常生活（おおむね支障が無い程度改善あり）



利用期間 2年→在宅生活に向けての支援・環境調整

在宅生活に向けての連携

センター内での支援



機能的リハビリ

- ・PT、OT、ST
- ・住宅評価
- ・自主トレメニュー提供

関係協力機関

市町村

- ・住宅改修、障害者年金申請
- ・日中活動の場(情報提供)

相談支援事業所

- ・日常生活等のアドバイス